

新年を迎えて

所長 尾上重幸



新年、明けましておめでとうございます。

昨年は当センターの独立に際し、各方面から多大のご尽力、ご支援をいただきましたことに、心より御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、わが国は、かつて経験したことのない大きな出来事に遭遇しました。それらは、自民党の分裂に始まる野党連合政権の誕生、バブル経済崩壊による大型構造不景気の発生と継続、失業の増加、終身雇用神話の崩壊等々、一方農業関係では、冷夏に伴う異常気象、天明以来の稲作の大凶作、それに続く外国産米の緊急輸入、さらには新多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）の最終合意によるコメ市場の開放等であります。

そのひとつ一つが、わが国の将来、われわれの生活、ましてやわが国農業の将来にも大きな影響をもち、これからの成行きが甚だ気にかかるころであります。このように、日本農業の将来に係わりを持つ、内外の急激な情勢の変化は、日本農政の決定的な変革の時期にかかったことを物語っているのではないのでしょうか。

農水省は、一昨年わが国農業をめぐる情勢に対応するため、21世紀をにらんだ「新しい食料・農業農村政策検討本部」を設置し、中、長期的展望に立って、わが国経済社会の根幹をなす農業、農

村の位置づけを明確にした「新農業政策」を発表しました。現在は稲だけではありますが、目下他品目についても経営展望が検討されています。農業をめぐる急激な変化のなかで、多種多様な対応が求められ、わが国の農業、農村の一層の発展をはかるためには、経営管理能力にすぐれた企業的経営感覚を持った担い手の育成と国際時代に対応した農業活性化対策が早急に打ち出される必要があると思います。

生産現場に最も近いところにいるわれわれ農業技術者は、21世紀のわが国農業の将来について、大きな役割を担うことになり、各地域の特性に根ざした農業技術の開発を推進していかなければなりません。

農業試験研究一世紀記念事業の業績にみられるように、今迄もすぐれた技術開発が数多く創出され、農業の発展に寄与してきましたが、今後、さらに農業の魅力をどのように構築し、将来に対する農家の不安をどのように払拭し、来たる21世紀の夢を提供できるのか、この最大の農業変革を迎えようとする時に、われわれ農業技術者に課せられた使命は、甚だ大きいものがあります。

当センターでは、更に現場で役立つ技術開発を目指して、職員一同一丸となって取り組む所存でありますので、一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いします。

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げますと共に、本年が明るい年になりますことをご祈念申し上げます。



ワッくん

成功させよう！
世界リゾート博
リゾート博わかやま
平成6年7月16日(土)～9月25日(日)